

■3-1 浸水が想定される区域の指定・県民の情報の把握



そなえる
減災対策

まるごとまちごとハザードマップ②

実施主体：豊岡市

事業概要：台風23号浸水標柱41本及び市内の主な公共施設（小中学校、地区公民館等）の避難所表示板に「地点標高」表示板を新たに設置



3-1 浸水が想定される区域の指定・県民の情報の把握



そなえる
減災対策

災害を伝える取組

事業概要：台風23号メモリアル防災学習会の実施

実施主体：国

実施主体：兵庫県

実施主体：豊岡市

防災学習会の様子

防災意識の向上を目指し、その機運をさらに高めるために、住民自らの活動報告の場と位置づけて、防災の取り組み内容を伝え、知ることで、地域の防災・減災を考える機会として、実施している。

活動報告には、地域コミュニティ組織、小中学校、防災士会、ボランティアグループなどの特徴ある取り組みを報告していただくことで、市内の防災力向上のためのきっかけづくりにつながっている。

コロナ禍を経て、オンラインでの視聴も可能とする学習会とすることで、より多くの方に防災の好事例を知っていただけるように配慮している。

『YouTubeによる同時配信』



『防災の取組事例の発表』



『各発表への講評』



『YouTube配信』

・配信期間：11月11日(土)～12月11日(月)
・総視聴回数：159回

参加・視聴・レポート 無料

平成16年台風23号メモリアル事業

防災学習会

～過去の水害を振り返り、
教訓を次世代につなげる～

豊岡市では平成16年台風23号の被害を、防災意識の向上を図るため、市民の皆さんに防災学習会を開催しています。過去の水害の被害を振り返り、教訓を次世代につなげることを目的としています。また、地域の防災・減災を考える機会として、実施しています。

※この学習会は、防災意識の向上を図るため、市民の皆さんに防災学習会を開催しています。過去の水害の被害を振り返り、教訓を次世代につなげることを目的としています。また、地域の防災・減災を考える機会として、実施しています。

日時 2023.11.11(土) 16:00～18:00 (開場 15:30)

会場 じばさんTAJIMA 多目的ホール
(但馬地域産業振興センター)
豊岡市大磯町1番79号 TEL 0796-24-5551

事前申込み制
下記申込み先まで
お申込みください。

防災取り組み事例発表

司会：フリーアナウンサー 佐伯 和恵 氏

① おもいやり隊
豊岡総合高校・和岡山高校

② 豊岡市立港中学校

③ 八条コミュニティ
(地域コミュニティ組織)

防災の有識者よりコメントをいただきます。

東京大学大学院情報学環
特任教授 片田 敏孝 氏

豊岡総合高校と和岡山高校の
取り組みを紹介する
パネル展示もあります。
ぜひご覧ください！

当日はYouTubeライブ配信を行います

右記URLまたはQRコードよりアクセスをお願いします。
※事前申込みは不要です。どなたでもご覧いただけます。

https://toyooka.bousaiseminar.jp

※開催会場のため、このURLからしかアクセスできません。

共催 豊岡市、兵庫県但馬県民局、国土交通省近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所
申込み・問合せ 豊岡市危機管理課 23-1111 (PR) / FAX 24-5932 / E-mail bousai@city.toyooka.lg.jp



3-1 浸水が想定される区域の指定・県民の情報の把握



そなえる
減災対策

災害を伝える取組

事業概要：台風23号メモリアル写真展の実施

実施主体：豊岡市

台風23号メモリアル写真展



▲泥の海に沈んだまち（豊岡地域）

▲道路が陥没（出石地域）

◆期間 2023年10月13日(金)～10月22日(日)

※休館日 10月17日(火)

入場無料

◆時間 午前10時～午後6時 ※金・土曜日は午後7時まで

◆内容
・2004年台風23号による被災状況や救出救助活動など、
当時の様子をうかがい知る写真
・防災グッズの紹介

「ミニ展示コーナー」を設置

豊岡市立図書館カウンター付近に、災害関連の図書を展示します（貸出できます）



▲土砂が民家を襲う（旧東地域）

2004年10月20日に本市を襲った台風23号は、死者7人、全壊333棟、大規模半壊1,082棟、半壊2,651棟など、本市に甚大な被害をもたらしました。

写真展では、被災状況や救出救助活動など、当時の様子をうかがい知る貴重な写真を展示します。

ご家族、お知り合いをお誘いあわせのうえ、ぜひ、お越しください。

<問合せ> ○豊岡市役所危機管理課 TEL23-1111 ○豊岡市立図書館 TEL23-6151



平成16年台風23号の教訓を伝えて、災害に備えるメモリアル写真展を実施。



市内事業者による
防災グッズの展示

3-1 浸水が想定される区域の指定・県民の情報の把握



そなえる
減災対策

災害を伝える取組

事業概要：防災ワークショップ・地域防災学習会の実施

実施主体：豊岡市

＜防災力向上住民ワークショップ実施地区＞



防災ワークショップを継続して実施。
地域コミュニティから区へ、区から区民へ、防災に関する情報が浸透するよう内容と進め方を検討して進める。

地域での防災学習を支援するため、地域の指導役の方を対象とした、住民学習素材を「地域防災活動の手引き」として作成。

地域防災活動の手引き 水害・土砂災害編



2022年12月
コミュニティなと未来

水害・土砂災害による犠牲者を減らすために

- ◆災害時には「自分や家族の命は自分で守る」、いわゆる「自助」が原則です。
- ◆地域で助け合い、自助のサポートが「共助」です。
- ◆災害時を想定して、普段から備え、その備えの取り組みを継続することが大切です。

普段から 災害時を考えて 備えを実践



もしも 災害が起きてしまったら...



2022年(令和4年)12月20日 火曜日

馬 豊岡 災害時 避難経路など想定

但東・合橋地区 50人がワークショップ

洪水や土砂災害時、避難場所や経路、タイミングを考えるワークショップが17の行政区から約50人が参加した。同町合橋地区の全16の行政区から約50人が参加した。同町合橋地区の全16の行政区から約50人が参加した。

参加者は、避難の時機や手段、向かう先を書き込む「マイ避難カード」を作成。それぞれの家族構成や自宅の立地などを踏まえて、台風

防災マップを見ながら避難場所や経路などを考える参加者ら。但東健康福祉センター

「この前の日までに「車で」知人宅に...と記入した。避難指示が発令されても外に出にくい場合は自宅の2階の山際から離れた場所に移動するなど、警戒レベルごとに3パターンほどを想定して身の安全を確保する方策を探った。同地区コミュニティセンターの川戸戸己防災部長は「一昔前からは、女性や若い世代なども含めて区全体で考えていきたい」と話していた。

西谷区に約4年前に移住してきた田中政典さん(53)、朋子さん(51)夫妻は「普段から近所付き合いがあり、避難時は隣の1人暮らしの高齢女性も一緒に移動しよう」と思っている。話す一方、近くの公民館の裏山が土砂災害特別警戒区域に指定されているため、「早めに少し離れた小学校に行くしかないのかな」と頭を悩ませていた。

(石川 翠)

3-1 浸水が想定される区域の指定・県民の情報の把握



そなえる
減災対策

災害を伝える取組

事業概要：市内全ての学校園でメモリアル防災授業の実施

実施主体：豊岡市

○台風23号メモリアル防災授業を市内全ての公立幼稚園・小中学校で実施する。
防災授業では、国土交通省作成（市編集協力、写真資料集提供）の学年別教材を活用しての実施について引き続き啓発する

- 令和元年度までは、小学校の学齢（低・中・高学年）のレベルに応じたテーマを設定し、水害の防災教育教材を作成。
- 今年度（令和2年度）では、中学校を対象とした水害の防災教育教材を作成した。
- 上記に加え、コロナ禍での避難を考えることをテーマにした教材を、小・中学校版で作成した。
- 市内小中学校に対し、台風23号メモリアル授業（10月実施）に合わせて提供した。

洪水に関わる
防災授業資料

学習指導案

（小学校低学年・中学年・高学年）

【中学校版】学習のテーマ

対象	タイトル
小学校低学年：テーマ①	雨の“恵み”と“災い”
小学校低学年：テーマ②	自分の命は自分で守る
小学校中学年：テーマ①	水害とその対策
小学校中学年：テーマ②	自然との共生
小学校高学年：テーマ①	水害に どのように対応するか ～避難方法を知る～
小学校高学年：テーマ②	わたしたちができること ～助けられる側から助ける側へ～

学習のテーマ	ねらい
<u>テーマ①</u> “学ぶ力”を身に付ける	避難できない人間の心理を理解する
<u>テーマ②</u> “考える力”を身に付ける	水害時の具体的な避難行動を考える
<u>テーマ③</u> “貢献する力”を身に付ける	水害犠牲者を出さないために、中学生の自分たちにできることを考える

簡易雨量計の配布

事業概要：H26に雨量計の配布を実施
H27以降は市ホームページ等で製作方法を公開

実施主体：豊岡市

「簡易型雨量計」の作り方

<https://www.city.toyooka.lg.jp/bosai/1019914/sonae/1000618.html>

簡易型雨量計の作り方

市では、土砂災害危険度予測システムで抽出した、特に危険な箇所（地区）に対し、自主避難の目安とするための「簡易型雨量計」を配布しました。
この雨量計を配布した地区以外からも要望があったため、「簡易型雨量計」の作り方を提示しますので、参考にしてください。

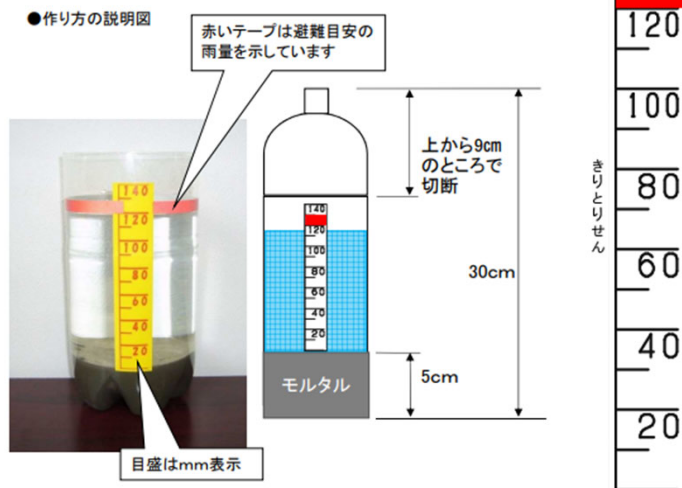
(1) 目的
雨量が120mmに達したら、自主避難の目安とする

(2) 設置箇所
家からよく見えて正確に測定できるように次のことに注意する
① 建物の屋根や庭木の枝などの下を避ける
② 雨が跳ね返ったり、風の影響が少ないところを選ぶ

(3) 使用方法
① 雨が降りそうになったら、雨量計を空にする（溜まっている水を捨てる）
② 雨水がたまり、雨量計の赤い印まで来たら、自主避難を考える

◆使用材料および作り方◆
① 炭酸飲料（CCレモン、ミツ矢サイダーなど）の1500ccのペットボトルを用意する
② 全長が30cmあるので、上から9cm程度で切断する
③ ペットボトルの下から5cm程度まで、モルタル（コンクリート）を入れる
④ 目盛を貼って完成（※目盛はmm表示、マジックなどで目盛を書いて良い）
目盛の上にセロハンテープなどで保護すると長持ちする

●作り方の説明図



問合せ：豊岡市役所 建設課 電話（直通）21-9007

「簡易型雨量計」の作り方

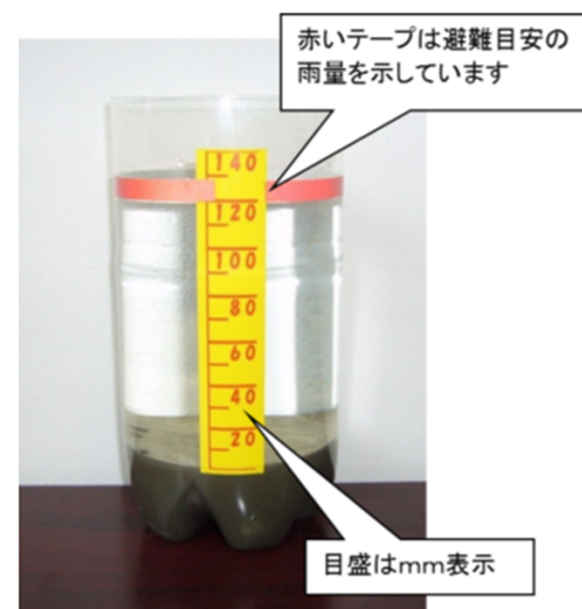


ページ番号1000618 更新日 平成30年5月23日

印刷 大きな文字で印刷

大雨・台風時には自主避難の目安に！

市では、土砂災害危険度予測システムで抽出した、特に危険な箇所（地区）に対し、自主避難の目安とするための「簡易型雨量計」を配布しました。
この雨量計を配布した地区以外からも要望があったため「簡易型雨量計」の作り方を提示しますので、参考にしてください。



3-2 浸水による被害の発生に係る情報の伝達



そなえる
減災対策

雨量・水位情報の発信

事業概要：ホームページ「川の防災情報」による情報発信

実施主体：国

■雨や河川水位の状況等、自治体の避難情報発令に資する情報、住民自らの避難判断に資する情報をホームページにて発信。

○「川の防災情報」 ホームページ URL：<http://www.river.go.jp/index>



3-2 浸水による被害の発生に係る情報の伝達



そなえる
減災対策

雨量計の設置

事業概要：気象観測システムPOTEKAを設置
(小佐浄水場、奥米地浄化センター)



小佐浄水場



奥米地
浄化センター

河川監視カメラ情報の発信

実施主体：養父市

事業概要：ホームページより河川カメラ映像を配信

河川カメラ

更新日：2020年05月28日

河川カメラの映像をご覧ください。ご覧になりたいカメラマークをクリックしてください。



河川カメラ～2.八木川(養父市役所前)～

更新日：2020年04月13日

【映像の日時は、画面上部をご確認ください。】



河川カメラ

- 河川カメラ～1.四山川(上小田橋)～
- 河川カメラ～2.八木川(養父市役所前)～
- 河川カメラ～3.大屋川(養父地域局前)～
- 河川カメラ～4.大屋川(養父地域局前)～
- 河川カメラ～5.八木川(養父地域局前)～
- 【外部リンク】八木川(養父市役所前)～
- 【外部リンク】八木川(養父市役所前)～
- 【外部リンク】八木川(養父市役所前)～
- 【外部リンク】八木川(養父市役所前)～
- 【外部リンク】八木川(養父市役所前)～

■3-2 浸水による被害の発生に係る情報の伝達



そなえる
減災対策

県民に対する防災情報の発信

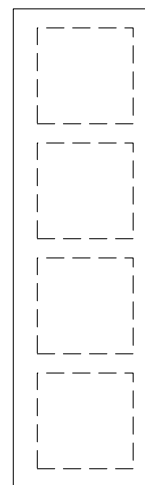
事業概要：道路アンダーパス部 冠水情報表示板の設置
(日高町浅倉地内)

実施主体：豊岡市



【電光板表示制御】

通常時



消灯

1次警報時



点滅

2次警報時



点滅

3-2 浸水による被害の発生に係る情報の伝達



そなえる
減災対策

県民に対する防災情報の発信

事業概要：防災行政無線

実施主体：豊岡市

○アナログ防災行政無線に代わるデジタル防災行政無線の整備をすすめ、2020年10月には全世帯にデジタル戸別受信機を配備。

豊岡市防災行政無線デジタル化整備工事 工程表

工事等区分	年	2018年		2019年												2020年												2021年			備考	
		平成30年		平成31年・令和元年												令和2年												令和3年				
		月	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1		2
親局（庁舎）	機器製作																															本庁舎・5 振興局・消防本部
	設置工事																															※2019年10月～ デジタル防災行政無線運用開始 来日、大師山、来日第二、城 山、森井山、郷路岳
山上中継局	機器製作																															
	設置工事																															
簡易中継局	機器製作																															9 局
	設置工事																															
屋外拡声子局	機器製作																															更新70局、新設 5 局
	設置工事																															アナログ設備撤去含む
戸別受信機	機器製作																															34,000台
	設置工事																															戸別受信機の入替
アナログ設備撤去																																親局、山上中継局
精算業務等																																

2020年10月末に
デジタル防災行政無線放送に
切り替え

■3-2 浸水による被害の発生に係る情報の伝達



そなえる
減災対策

県民に対する防災情報の発信

実施主体：新温泉町

事業概要：防災行政無線、ケーブルテレビ
「ひょうご防災ネット」による情報発信



- ・防災行政無線屋外拡声子局
設置箇所数
70箇所
- ・ケーブルテレビ受信機
配布戸数
1,807戸
- ・ひょうご防災ネット
登録者数
(R6.3.31時点)
1,791人

災害時に防災行政無線やケーブルテレビを活用し、注意喚起や避難情報を発信している。また、ひょうご防災ネットでも同様の配信を行い、令和4年度には町が放送した内容を再度、聞き直すことができるようにシステムを更新し、住民に確実に情報伝達ができるよう努めている。

実施主体：朝来市

事業概要：
道路アンダーパス部 水深表示版の設置
ケーブルテレビ



・道路アンダーパス部における災害時の交通安全対策のため、水深標示板の整備を行った。令和3年度に市内3箇所の道路アンダーパス部において、冠水の危険があることを示す水深標示板の設置が完了した。

■3-2 浸水による被害の発生に係る情報の伝達



そなえる
減災対策

屋外拡声子局の設置

事業概要：屋外拡声子局を設置し、風水害や津波災害時における避難誘導を強化

実施主体：香美町

概要：防災行政無線デジタル化工事により、屋外拡声子局を町内に88基整備を実施。
防災行政のデジタル放送の本格稼働を行う。

- ・H25、H26実施 小代区（23基）、村岡区（38基）
- ・H30、H31実施 香住区（27基）



■3-3 浸水による被害の軽減に関する学習



そなえる
減災対策

防災に関する人材の育成

事業概要：出前講座等の実施

実施主体：豊岡市

《2024 年度 豊岡市政出前講座 危機管理課分メニュー 一覧》

- ・地震と津波の話～いざという時のために～
- ・風水害の話(洪水編/土砂災害編)～いざという時のために～
- ・地域コミュニティや自主防災組織で何に取り組むか
- ・避難所運営をみんなで考えよう！〔HUG ハグ(避難所運営ゲーム)、クロスロードゲーム〕
- ・風水害時の逃げ時を考えよう～マイ避難カードの作成について～

地域での出前講座には、女性の参加を促すよう、主催者に要請している。

中学校、高校にも出前講座を行い、若い世代への防災意識向上に努めている。



日高高校での出前講座



豊岡高校での出前講座

■3-3 浸水による被害の軽減に関する学習



そなえる
減災対策

防災に関する人材の育成

事業概要：児童・生徒等を対象とした防災学習会等の実施

実施主体：養父市

R6年度外国人向け日本語教室



中学生向け防災講座



■3-3 浸水による被害の軽減に関する学習



そなえる
減災対策

防災に関する人材の育成

実施主体：新温泉町

事業概要：出前講座等の実施



出前講座実績

令和5年度：6回	平成30年度：2回
令和4年度：5回	平成29年度：2回
令和3年度：1回	平成28年度：1回
令和2年度：1回	平成27年度：3回
令和元年度：4回	平成26年度：5回

実施主体：豊岡市

事業概要：

コミュニティFM局と連携した情報発信

平成28年5月23日（北但大震災記念日）～平成29年3月28日の間、「みんなの防災」と銘打ち、防災ワンポイント放送を21回にわたり、防災に特化した10分間の番組を放送。

放送内容を5分程度に短縮した内容を防災無線でも再放送。

新温泉町では、小学校や地域団体に防災に関する出前講座を実施。
出前講座では、浸水エリアの場所や浸水時の注意点、日頃から備えることの大切さなどを普及・啓発。



そなえる
減災対策

防災マップの作成支援

事業概要：住民自らが作成する防災マップの作成支援

実施主体：豊岡市

実施主体：新温泉町

安全な避難経路を考えるために、出前講座で防災マップの作成支援を行った。安全な場所に安全な経路を通して、安全なタイミングで避難するために、逃げ時を考えるマイ避難カードの普及推進に取り組んでいる。

住民自らが作成する防災マップの作成支援を実施。今後も地区等から要望があれば、随時、対応（新温泉町）

洪水リスク
(浸水深や
浸水継続時間)

**誰の避難？
どんな人の避難？**

**土砂災害
リスク**

マイ避難カード

記入例

防災マップで自宅の災害リスク（災害の危険性）を確認してください。

▶ 自宅の浸水想定 3～5m ▶ 土砂災害警戒区域内かどうか 土砂災害警戒区域内

	最善(ベスト)	次善(セカンドベスト)	三善(サードベスト)
いつ	台風接近の前日まで	警戒レベル3 高齢者等避難の発令	警戒レベル4 避難指示の発令
どこに	親類・知人宅() ホテル()	指定緊急避難場所 ()	ご近所避難 ☆自宅より安全な ()
どのように	迎えに来てもらう (誰に)	徒歩()分 自家用車()分	徒歩()分
誰と	近所の()さんと	家族()人で	家族()人で
何を持って (1～2日分 を持参する)	食料品 ・缶詰・レトルト()個 ・カロリーメイト()箱 ・チョコレート()袋 ・乾菜漬菜()袋	飲み物 ・水(500ml) 本 ・お茶(500ml) 本 ・ジュース(500ml) 本	生活用品 ・懐中電灯・防寒着・着替え ・タオル・シート・風呂 ・携帯電話充電器・毛布 ・常備薬・お薬手帳

最後の手段 万が一逃げ遅れた場合は、建物の2階以上の、山とは反対側の部屋で安全確保を図ってください。

**避難の
タイミング**

安全な場所

**避難の手段・
ルート**

**家族で？
ご近所と？**

**必要な物資
(最低1～2日分)**

防災ワークショップや出前講座で「マイ避難カードの作成」を体験してもらい、多くの区民がマイ避難カードを作成する機会を設定する。作成体験した区役員等が、区に持ち帰り、区内でのマイ避難カード作成につながっている。

■3-4 浸水による被害の軽減のための体制の整備



そなえる
減災対策

避難施設等への案内板等の整備

事業概要：避難場所表示板、避難誘導表示板の設置

実施主体：豊岡市



■3-4 浸水による被害の軽減のための体制の整備



そなえる
減災対策

津波避難ビルの震度感知式鍵ボックスの設置

事業概要：揺れを感知し自動で解錠する津波避難所場所用
鍵ボックスの整備

実施主体：豊岡市

津波避難場所の施設の玄関にかぎ保管庫を設置。

かぎ保管庫は、津波が発生した場合、夜間・休日に指定津波避難場所である学校等の施設内に避難するため、震度5弱以上の地震の揺れを感知し、自動で解錠される。

かぎ保管庫の中には施設の玄関を開ける鍵が入っており、いざというときは、かぎ保管庫内にある施設の鍵を使用し、施設の玄関を開け、施設内へ避難ができる。

◆かぎ保管庫設置場所（5か所）

港小学校玄関横

旧港西小学校玄関横

港中学校玄関横

(株)脇漁具製作所入口門扉壁面

竹野小学校玄関横



▲設置場所（港小学校玄関）

■3-4 浸水による被害の軽減のための体制の整備



そなえる
減災対策

避難行動要援護者の避難支援者に対する公費によるボランティア保険加入促進

実施主体：豊岡市

事業概要：避難行動要援護者の個別支援計画策定を推進するため、避難支援者のボランティア保険料を市が負担する。

災害時に高齢者や障害のある方等の避難を支援するために、個別避難計画の策定を地域にお願いしている。

地域での避難支援を支援するため、2017（平成29）年度から避難行動要援護者を支援する方の負担を軽減し、避難の支援の際に起こる事故等に備えるため、支援者に対するボランティア保険に加入する取組みを進める。

ボランティア保険の保険料は市が負担。

■3-4 浸水による被害の軽減のための体制の整備



そなえる
減災対策

防災組織の結成推進・活性化

事業概要：防災組織の結成

実施主体：兵庫県防災士会但馬エリア
豊岡ブロック

実施主体：五荘防災クラブ

兵庫県防災士会但馬エリア豊岡ブロック 平成24年結成

五荘防災クラブ 平成28年結成

主な活動

小中学校での防災授業

地域、団体での防災学習

被災地支援

スポーツ大会でのライフサポーター活動